

報新域京

ずらかへく急し如がく行を道き遠てふ負を荷き重は生一の

行雲流水

みどり

▲讀者諸君に於ても御承知ならんが近者の東京二六新報の漫畫は却て奇抜にて候ひき勿論未來のことに候も竹編新統監を案山子に譬へ、韓人を鳥に誤し伊藤公は水百百姓といふ型にて遠くより案山子を眺めのながら何ら一服吸はうか……と草の上に腰を卸した風体誠に以て余輩の意を得候

▲察する所東京の新聞も硬派の問題として日韓事件も下火となり、高商問題も略ぼは落着き告げ餘す所は軟派の重大問題たる首無女事件位の所に候へば益々相撲の始まる迄中つたにて統監交迭問題をあしらは如斯く漫漶に表現はして讀者の感興を喚起せんことに努め居るものなりと存候

▲併し余輩は東京の新聞紙が讀者に對しては寄席の演藝的に後の藝人の來る迄中つたなまとして統監交迭問題を種々の形に仕組みて觀覽せしむるの勞へ多いたし候も唯其旨を肝要なる箇書丈は如何なる場合にても減

せざらんことを希望いたし候。而も中には大分に筋骨を減茶苦茶にする脚色家も有候やうに見受け候。是等は原作を侮辱たるものに於て其の罪到底赦すべからず候。▲漫畫に就きて思ひ起せしが、兎角此の漫畫程六ヶ數ものは無之候。殊に新聞の漫畫といへば大抵は時事問題の諷刺に候。黒を黒としし白を白とし、是を是とし非を非と描くやうで漫畫にはあらず候。既に諷刺なり、故を以て虚無神韻の間に意を寓し、微妙縹緲の裡に其の真を語ざるべからず候。從つて之が考案者は先づ的に應ずる奇才を有するものさなくばは會八傳の表裏を會得せし所謂酣い甘い嗜み分けし人ならざるべからず候。手近いへば都を逸の一つも器用に諷ふ人たるべからず候。

▲而して此の漫畫マツリ諷刺畫が社外人に及ばず感想は偉大なるものにて決して割の漫畫として笑つて輕々に附すべきものには非ず候へ、而已ならず彼の新聞記者がを執つて堂々たる論文を草するよりも如ばかり困難なるやは知れず候、一例を舉げ余輩の知る東京のある新聞の論説記の如きは常に嘆息を漏らし「新聞の論説書くよりも漫畫を考へるが非常な辛いくと申し居り候、之れ元より左あらざるべしにして又左あらざるべからざることに候

●伊藤統監の辭任は喜ぶべきことなれど、編輯統監の昇任は如何あるべしとは世人疑問のやうに候、疑問とは他なし、會社で仕事が出来るが又一般の威望は如何あるかといふにあるが如し、之に對して余は答へん、會社子は一人で借金の出来るにあらずして常に有力なる裏着人を要する人たればなりと二十十六日午後二時半

4

•••••

●拳を聞きて
床の小傘を取り出でて、弾くは悲曲の怨夫
戀意よりも、余の言は、主の哀れをも
たらしめて、涙にむせび、となく、あはれ
もいたく深く潮に沈める主を思はひて空吹
く風と聞き流し、俚謡のふしも面白くすか
になつて我はたい、一人木影になつてすみて
月影暗き五月雨に、袂の露をしぼりけり

●獨立國
片々子
僕の知れるヨボ曰く、日本の對韓政策は全
體韓國を結局、グする積りなるか、伊藤公
杯の言ふ所を聞くと、韓國を文明に導き、將
來立派なる獨立國とする也と、全體獨立と
は如何なる事なるか、韓人は由來獨立なる
ものは知らざりき、近來獨立々々と騒ぐ
獨立する名稱は最近日本の教ゆる所也、日
本は韓人に惡知慧を付けたり、今日の排日
思想は日本の誇き者也と、ヨボの言たりと
雖も言ふ所理あり、其間に明解を與ふの時
に窮したりき。

秋 月

百人一首讀習 (一)
 まゝこ女史投
 黄金きんごなすいろにみのりし稻の田に
 天智天皇
 しら露やどす處のうるけさ
 ●持統天皇
 春はるくれて夏の縁のいろふかく
 羊ひつぎにかしりし六七の蚊帳
 ●柿本人麿
 足あしひかば秋の夕べにかげたわて
 なかくし夜のひどり淋さみき
 ●山邊赤人
 樋ひの浦うらたいてみれば砂ばかり
 井戸の高輪たかねきくまふぞふる
 ●猿丸太夫
 わく山に挽木の音のいどなかく
 兒童のなきこね母ぞ戀しき

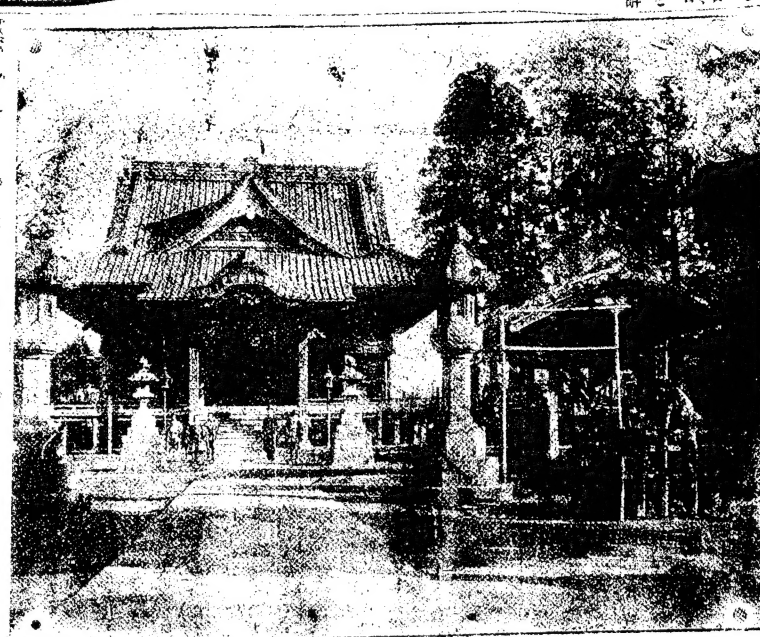
此方は鶴屋の家に、井筒屋五郎兵衛が、二分三人と共に、宗五郎の旗本を待受けて居る所へ、宗五郎が一生懸命に成つて立歸り参したから、島屋源兵衛が「源公津の且」の様、よく御良りに成りました、もう江戸へ御客はじめ昔ながら此通りで御待受けをして早く戻りました。宗ハア有難うございます、漸く居ると云ふのは何しろ、印纏の喜右衛門のため、既の事で捕へられる所を、甚兵衛に助けられたが、其甚兵衛が中へ飛込

(九十二) 眞龍齋貞水講演
佐倉宗吾



佐倉宗吾

• **•**



(堂靈吾宗るれ祀を人四供子及吾宗武村、公郡旆印總下)

で生命を捨てる、實に哀れにも非道とも謂はれぬ所を運れて來たのでございますから、何うして幾ら倅い宗吉だつて、顔の色の様うするは當り順の事でありませう、今この宗五郎の歸つた聲を聞いて五郎兵衛が「サア宗五郎殿さうなさる、宗直くは是から江戸へ立歸ります、五それちや若い奴に支度としろ、宗、先づ源兵衛殿、緩り歸話しなさい、右の有様であるから、何れ後たにいけれど、御使つて致しまして、もう御降てから何とか御使つて、手當を教して來ました、希か御安心なすつて下さい、道中には少し降りには有りは致しましたけれども、それは後に分りませう」と、オド／＼して居る源、それでは井筒さう達……五「エ、鳥屋さん種々御厄介にござりました、一刻も早く、御願ひ申します、源「エ、私が引受けましたから、後の事は御心配なさぬで、御身体は大事になさるいませう」と駕籠の御へ寄つた源、それちや御嫌嫌宜しうと云はれた時、宗吉はボロ／＼涙を流す、御嫌嫌宜しうと云ふものは、是から江戸へ往つて、將軍様へ御直訴なさつて、生命を捨てる公津日那姫、是が今生の御別れかと思ふと源同、となく胸の所が迫つて來て、ハハ／＼と落涙、後の結末を御願ひ申しますと云ふに、宗吉も心の、相互に照し合せて、思ふに、井筒屋五郎兵衛が、五「サア躊躇／＼してゐる場合でね若い者、緊手やつて下さい、鳥屋さん種々御厄介にござりました、五部兵衛は、是處迄や打込んで、四邊へ

豫約募集

本書には統監府軍司令部師團司令部各
理事廳鐵道管理局通信管理局各民團各
商業會議所及び韓國政府中央地方諸官衙
各國領事館職員錄を併載致す

朝鮮紳士錄

定價 總クロス 金文字入
 實部 金五圓
 豫約特價前金壹部 金參圓
 申込締切期日 六月十五日
 送本 期日
 登載事項
 政治家、軍人、官公吏、經濟財政家、實業家、工業家、農業家、醫師、辯論士、教育家、宗教家、美術家、新聞記者、銀行、會社、宗教、政黨、協會、俱樂部、組合

發行所 京 城 西 小 門 通
 本町二丁目
 本町二丁目
 新玉城前
 北畧安洞
 中畧廣橋東邊
 中畧罷朝橋越邊
 南大門通
 豫約申込所
 本紳士錄
 韓英米佛獨其他紳士の全体を網羅致候へば公私實務者の坐右に欠くべからざる要書に有之候
 義中滙大盛文日城新
 生央東韓文林韓新
 盛書書書文書報
 號館館林堂堂房社

鏡かがみの中なかから覗のぞいて見みると正ただしく堀田ほりたの役人やくにんでありまあす。

廣 告

●●●滋養と牛乳●●●

純良

馬車

牛乳

●●●衛生と消毒●●●
岡野牧場
電話 〇六九番

右は今般方記の處に於て來る六月一日より
斯遺を教授す希望の方に至急申込あれ
東京壽町一丁目十八番戸

明治廿年七月創立
東京火災保險株式會社
資本金一千萬圓
事務所
京都本町二の三電話一〇六〇番
京都大橋店
山口吳服店
電話九

移轉廣告

移轉
 南大門外御成町紅葉館跡
 (茂呂運送店前)
 五月
 開通 電話九三八番
戸田病院

待合春日
電話九七〇番
洋室各座樂券願付中

待合

昨日午前十時頃大和町二丁目二百三十八番戸居住大分縣平民菓子商池邊末松方より發火し全燒三月間三十五分鐘火したるが今其機嫌を聞くに盜火の原因は同夜九時五十分頃主人米松不在なりしかば表くら(又は)三丁字十代(子)を盗乳して入口より左側にある運炭内にて假裝を爲せしに蓋開の勢れの爲めにつゝ熱除き此時長女のみじの「ミ」は店にて火を起し次女みつね(子)は獨にて之を眺め居たりしに姉妹の子の中腰と覺し

たるに刑事等は密匿して之れを取捕を遂める所彼れが所持品中に鉛錫其他の金屬等少量ならざりしかば之れこそ貨物偽造の原料に相違なしとて嚴重取調べたるより同人も遂に包み切れず遂一白自するに至りたるが彼れの姓名及び共犯者の姓名は何處查上差岡あると以て暫く之れを秘し置かんが其上の偽造に就ては共犯者七名にて昨午十日頃より江華島にて電氣を使用せる室

怪しきものありたれば切犯人は此奴なら
んと有無を云はせず引き揃へて取調へたる
に鑑定に達はず右三百五圓は此奴の盗みた
るものにして **足袋の中に匿し居た**

たに刑事等は奮闘して之れを取調を遂めたる所彼等が所持品中に鉛錫其他金銀等少量ながらざりしかば之れこそ貨幣偽造の原料に相違なしとて嚴重取調べたるより同人員に包み切れず遂一白するに至りたるが彼れの姓名及び共犯者の姓名は尚捜査上差聞あるを以て暫く之れを秘し置かんが其の偽造に就ては共犯者七名にて昨年十月頃より江華島にて電氣を使用せる室

全なる機械を用ひ約銀貨一萬兩を偽造し本年一月來海州、永宗、仁川等にて行使し、悉したりと斯くて刑事等が江華島の本據を密きたる際の如き數枚の偽造貨幣を殘し居り將に又新造に着手せんとしたる所を逮捕したるものなりと

▲飲着な客と不埒な飲屋
岡山縣吉備郡秦村當時黃金町下宿屋統明
客宿無頼松永清太郎（主）は一夜度旭町二
丁目歌舞伎部下小路（一名地蔵宮）飲食店
納（い）宅にて午後七時頃より十時頃迄飲
を爲し其勘定銀二圓五十錢を支拂はす畢
を吐きつゝ戶外に出でとして近所の同業
加藤金太郎及び水室竹五郎等が來りて之
引止め爭論の末遂に清太郎を叩き伏せし
又も一二人バラ／＼と來り投叩きを爲
居る處へ同町玉川ラムチ製造所の林玉吉
者通ひ掛りて仲絶を爲し清太郎は一
者通ひ掛りて自身で其支拂を引

所は南山町二森勝次氏の所有にて建家二百間末松方被密二百間田中杉損密九なりと荷は負傷者は本町六丁目小河病植村病院に收容したるが何れも二週間て全治の見込みなり聞所は京成座に接近裏手なりしかば俳優は份装の儘驅出客は吾先とて遁出一時は中々混雑せ

百二十號 (三) 仁川警察署の日報刑事事は本月初旬、來市二十號、十號、五號、二號、五號等各條の請罰を行使するものもあると探知し各方面に分ちて偽造犯人の檢舉に勤め居るに於て、連類四名を逮捕せり今左に其の太字が釋せん本月中旬、海津、船泊、海利九、海州、仁川に警港したる際、船長室の机の中にたる金三百五圓が何時の間にや紛失したるなり、船長は上陸の上直に仁川警察署へ出で、なり仁川警察署に直に海利九、乘客を二と取調へたる處一韓人の駈馳

遊の士紳

多かつた、其風變中尤も著しきは久保松桑君で彼は鐵道國有と同時に鐵道重役の椅子を離るゝや毅然去つて能狂醫師となつた、斯かる總物の集合體を統帥せし會我手餘は一通の心配でなかつたうだ併し千鶴は折花柳若しくは紅粉に近くと好まざる事否も非常に遠ざけた故に部下の者も決して斯かる置樂は爲なかつた若し閑君にして外の方面にありしな

◎ 監府 愛媛 成

其履變中尤も著しきは久保松
は鐵道國有と同時に日露重役
なるや、然らば去つて能狂言師と
稱する物の集合体を統帥せし
一過の心配でなかつたらうだ
折花櫻柳若しくは紅粉に近づ
き事々非常に遠ざけた、故に
否乎決して斯かる置業は爲なかつ
た向君にして外の方面にありしな

●公判だより
 開かるべき公判十時より、運送賃金請求と市民生事（千餘十兩）の如し
 人加藤藤太郎被告と訴人富田松二、玉田代金請求と訴人田島保太郎被告と訴人玉田多三郎、損害賠償と訴人平棧三郎被告と訴人鬼頭兼治郎
 明二十八日法務院に於て

●「歌醫の診察」
 患者「どうも此節候分に一向眠れませんで、此も毎日夜一馬の様にコキ遣はれる、振のやうに腹が減る醫師「ぢやや、歌醫の診察を受けたらうでしやう」

芥子カイシは、餘り辛カラシくて、喰クハへませ
 南瓜ナンカの味アジが、宜ヨク
 市販シハンに、往モトて、
 牛蒡ゴボウを買カつて來キい
 甘藷カンショも、あつた
 ら、其ソノに、買カつ
 て來キい
 ケーヂヤースン、ヌ
 ムー、マイワリー、モツ
 モタカエツツ
 ホーバキリー、マシチ
 ツタ
 チャーコイ、カリー、
 ーバク、サー、オナ
 カムジョート、イツ
 ーツン、アオロー、
 ー、オナラ



の爲めに模範的貨長屋を作つて與れる人、
無いかなア(大工) 傳人町を廻り行商す
るに歌ふたいものを唄つて來るものが澤
あるが其聲と來たら嫌なない或る傳人
云つた恰然日本人の癡言の樣だ(花車
▲昔しの人には唄ひことを云つたものだ
は斯くこゝには出來るが唄ひを斯くこゝ
來るの實に其通りである盜みを爲した
るものは其盜みを爲した動機も徑路な
い筈索もせずして直ちに餘儀ない事情から
と同情するものぞ口にすれば眞實に表れ
にすれば文の何處かに顧れる者だ(自分
自分ながら熟を感心したとある(八の子

の爲めに模範的貨長屋を作つて與れる人、
無いかなア(大工) 傳人町を廻り行商す
るに歌ふたいなものを唄つて來るものが澤
あるが其聲と來たら嫌なない或る傳人い
う云つた恰然日本人の癡言の樣だ(花車
▲昔しの人には唄いことを云つたものだ
は斯くことには出來るが唄いを斯くことは
來ぬと實に其通りである盜みを爲した事
のものは其盜みを爲した動機も徑路も
盜索もせずして直ちに餘儀ない事情から
と同情するものぞ口によれば眞實に表れ
にすれば文の何處かに顧れる者だ(自分
自分ながら熟を感心したとある(八の子

草煙卷

小毒

新菸

京 城

廣江商會

電 話 五 七 六 八 號

草煙卷

小毒

新菸

京 城

廣江商會

電 話 五 七 六 八 號

農工債券引替公告
當行農工債券關渡濟に付本店及支店出張所に於て
申候
尙該債券利子に來る六月一日より各農工銀行本支
可申候

農工債券引替公告
當行農工債券關渡濟に付本店及支店出張所に於て
申候
尙該債券利子に來る六月一日より各農工銀行本支
可申候

齒科診療
自午前八時
至午後五時
東京醫科大學專攻
統監府委託齒科醫
飯塚
南山町巴城館上隣

齒科診療
自午前八時
至午後五時
東京醫科大學專攻
統監府委託齒科醫
飯塚
南山町巴城館上隣

●警察署廳舎及警部官舎其他新築工
右六月三日入札ニ附ス詳細ハ廿八日以後
官報又ハ當所若クハ釜山出張所ノ揭示ヲ

●警察署廳舎及警部官舎其他新築工
右六月三日入札ニ附ス詳細ハ廿八日以後
官報又ハ當所若クハ釜山出張所ノ揭示ヲ

●京城裁判所廳舍其他新築工事
右六月四日入札ニ附シ詳細ハ廿八日以後
官報又ハ當所ノ揭示ヲ見ヨ

建築所

●京城裁判所廳舍其他新築工事
右六月四日入札ニ附シ詳細ハ廿八日以後
官報又ハ當所ノ揭示ヲ見ヨ

建築所

有百〇風毒發雲

有百〇風毒發雲

朝日石鹼製造所

[illegible]